

# 町長日誌 No.199



町長日誌の第199号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

## 5月18日(月) AM10:00

サクラの季節が終わりモーモー城の水仙もきれいに咲き誇りました。本来であればこの時期は滝上の芝桜、湧別のチューリップなどの花観光真っ盛りの頃なのですが、残念ながら今年は会場に入ることも出来ず、チューリップなどは早々と花を摘み取っているようです。当たり前のことが出来ない、見えないウイルスに怯えながら暮らす毎日は精神衛生上良くないのですが、直接仕事が影響を受けている人々は生活そのものが成り立たなくなる深刻な状況が続いています。

13日の夕方知事が緊急記者会見を行い、石狩管内以外では休業要請の一部を解除することとなりました。また、14日夕方には首相から39県において緊急事態宣言の解除が発表されました。残念ながら北海道は未だ解除とはなりませんでしたが全国的に新規の感染者は減少傾向なので、6月からは通常に戻れることを願っています。幸いにも町民皆様からの感染は出ていませんが、少なくともしばらくは「日頃的生活圏内での行動」に止めてください。お願いします。かく言う私が日頃は最も町外・道外へ出ることが多いのですが、恐らくお盆過ぎまでは出張・陳情など特に東京方面へ出かけることは少ないと思います。

## 4月22日(水)

町が購入したマスク2万枚を町民一人あたり5枚として配布しました。このマスクは余市町の斎藤町長（紋別市出身）からのご紹介で、道内の企業を通じて購入したものです。町内ではほとんどマスクは購入できませんので、ほんの少しですが町民の皆様にお分けすることが出来ました。斎藤町長とは昨年北海道町村会の海外視察で同行した中で、一緒に視察した町長さん達にも連絡し、西紋の市町村にも紹介させていただきました。しかし、マスク製造の8割が中国の工場と言うのには驚きました。医療関係者の防護用のガウンやマスクも中国で製造されているようです。救急隊員が着る水色の防護服も素材はマスクと同じ不織布で製造はベトナムとのことで、

現在購入には6ヶ月待ちの状況です。常日頃、町に対して国や道からは災害時の備蓄など厳しい指導があります。今回のような感染症対策も『防疫』と言う災害対策の一つなのですが、肝心要の医療用資材などが自給出来ていないことを国や道は大いに反省すべきことだと思います。

## 5月9日～11日(土～月)

この季節には毎年クマの出没騒ぎがあるものですが、今年の熊はちょっと違っていました。9日出興部漁港付近に出没したとの情報が入りました。こういう場合基本的には山に帰るように仕向けますが、人に危険が及びそうな場合は猟友会にお願いして銃で駆除をします。今回の熊は母親から独立したばかりの若い小型の熊で、この日は海岸を豊野方面に移動したとのことでした。しかし実際には高校の裏の林の中にいたようで、翌10日(日)には高校教員住宅の裏にクマがいるとの連絡が入り出動しました。熊はその場所から動かず林側には民家が無いので猟友会としては駆除を考えましたが、警察からは「半径200m以内に人家がある場合は銃の使用が出来ない」との指導があり、何とか山に移動させようと試みましたが、すると夕方に熊は国道を渡り農協スタンド付近から緑ヶ丘の林の中に入ってしまった。しかし、この林にはクマの好物であるドングリが沢山落ちていて動こうともしません。しかも、周りには人家があるので銃を使えない場所なのです。さらに翌11日(月)午前中に警察・猟友会と協議を重ねるも良い方法が見いだせず、とにかくモーモー城の方に移動するようにサイレンを鳴らすなどしましたがなかなか熊は移動しません。しかし、夕方熊がモーモー城の裏側に移動したところを粘って待っていた猟友会に駆除され3日間にわたる騒動は終わりました。熊は一度餌の場所を覚えるとなかなかその場所を離れない習性があるための処置でした。最近は、生ごみなどの味を覚えた熊が巣穴を人家の近くに作る傾向が強くなっていると聞きます。熊との共存は私たち人間にも責任がありますので、山菜取りなどでは十分ご注意ください。

学校では分散登校が始まりました。少しずつ元の生活に戻る試行錯誤が続けられています。どうか、それぞれの立場でご自愛ください。では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など（使い古しのもので構いません）に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。

